



心の教育 道徳的実践力を高める 一斉道徳授業・感謝の集い

今年のさやまっ子教育の日の一斉道徳は「感謝について」行いました。さらに昨年実施した「いじめゼロ宣言」の発展として、今年度は「感謝の集い」を実施しました。これは生徒の自尊感情を高め、学校教育目標の「豊かな心の育成」を具現化するために生徒会が主催し、生徒が感謝の気持ちを醸成し、主体的に参画できる生徒の育成を図ることをねらいとしたものです。生徒は、日頃お世話になっている方へ感謝の意を表すことで、互いの気持ちを尊重し合い、自尊感情を高めることが出来ました。このように道徳的実践力を身に付けることは、授業以外の様々な行事や体験活動を通じて、総合的に高めていくことです。今後も一つ一つの行事を通じて豊かな心の育成に努めていきます。



11月の各学年の実践

【1学年の実践】

資料名《君が生まれた日》

内容：学校でケガをした蓮は、心配する母に苛立ちを感じ口論になってしまう。しかし看護師から自分が生まれた日のことを聞き、母のことを考えながら帰路につくのであった。

生徒の感想：今日の授業で、自分が生まれてくることが想像以上に大変だったことがわかりました。これからは感謝を忘れずに命を大切にしていきたいです。

【2学年の実践】

資料名：《夜の果物屋》

内容：延長部活で帰りが遅くなった少女が歌いながら帰宅していた。夜道では1軒だけ灯りが点いている果物屋があった。彼女は自分のために思って灯りを点けてくれていたことに気づき、感謝の言葉を述べる。

生徒の感想：「毎日感謝を忘れずに過ごしていくことが大切だと感じた。」

「周囲の人に感謝の気持ちを伝えたいと思った。」

「少女のように感謝の言葉を伝えたい。そして、感謝される行動が自分からできる人になりたい」

「感謝をすると心が温かくなったり周りが和んだりするので、『ありがとう』はいい言葉だと思った。」

【3学年の実践】

資料名《日本一短い手紙》

内容：感謝の思いが込められた詩をグループごとに読み、解釈を発表した。また、イメージマッピングから感謝を伝える相手を考え、それぞれが感謝の気持ちを込めた短い詩を作成した。

生徒の感想：「短い詩でも感謝の気持ちがこれほど伝わるとは思いませんでした。」

「他の班の手紙の受け取り方がいろいろあって、共感できる部分がたくさんあった。」

「これからは恥ずかしながら感謝の気持ちを伝えていきたいと思います。」